

完成した「門司港サイロ」に外航船が初寄港
～北九州港を飼料原料の物流拠点に～

「総合港湾」としてさらなる飛躍を目指す北九州港において新たなプロジェクトが本格的に始動します。このたび、地元の物流企業の門司港運を筆頭に、商社の兼松（東京都）、飼料大手の協同飼料（横浜市）が出資して平成22年9月に設立した「門司港サイロ株式会社(本社・北九州市門司区)」の穀物サイロが完成しました。

東アジアに近い地理的優位性を備える北九州港、なかでも九州と本州の結節点に位置する門司港地区へのくん蒸設備付き穀物サイロ導入で、輸入貨物にも対応した飼料原料の一大物流拠点としてさらなる発展を目指します。

3月16日(316)に竣工式を行う予定ですが、外航船が「門司港サイロ」に初寄港する2月21日に歓迎行事を下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 歓迎行事

- 1) 日 時 平成24年2月21日(火) 16時(着岸は2月19日16時)
- 2) 場 所 門司区門司6号岸壁「MIKAWA」船内
- 3) 歓迎行事 歓迎の挨拶、入港記念の盾贈呈(港湾空港局)
花束贈呈(北九州港ポートアテンダント)
- 4) 入港船舶 船名 「MIKAWA(ミカワ)」
14,078総トン、全長×幅 127.7m×19.6m
貨物 インド産大豆粕 約3,000トン

2 事業概要

1) 門司港サイロ株式会社の概要

- 資本金 2億円(門司港運51%、兼松25%、協同飼料24%)
本社所在地 北九州市門司区西海岸1丁目1-11
代表者 代表取締役社長 野畑 昭彦(門司港運株式会社代表取締役社長)

2) サイロの概要

- 所在地 北九州市門司区西海岸2丁目5-17
年間取扱量 約16万トン
保管能力 1万6千トン 主原料(とうもろこし、こうりゃんなど)
副原料(大豆粕、菜種粕など)の合計
処理能力 1時間当たりの搬入能力は主原料400トン、副原料300トン
搬出能力は主・副原料ともに100トン
設 備 主・副原料対応くん蒸設備、異物除去装置、粉碎機、袋詰め設備 等
その他 船舶代理店・港運事業者(船内・沿岸作業) 門司港運株式会社

3) 北九州の配合飼料の状況

施設面で安定供給に不安

関門地区では現在、配合飼料(水産飼料含む)の生産工場として3社5工場が稼働し、年

間約60万トンを生産していますが、沿岸部に植物検疫など輸入貨物の受け入れに対応する穀物サイロ設備がない上、国内貨物用の一般平倉庫も老朽化が進み、保管能力も十分でないことが問題となっていました。

主原料であるトウモロコシは現在、4万から5万トン級の外航船が寄港する他港から内航船で関門地区まで運ばれていますが、内航船の隻数は年々減少傾向にあるほか、トラックで陸送されてくる副原料も多く、安定供給面でも不安がありました。

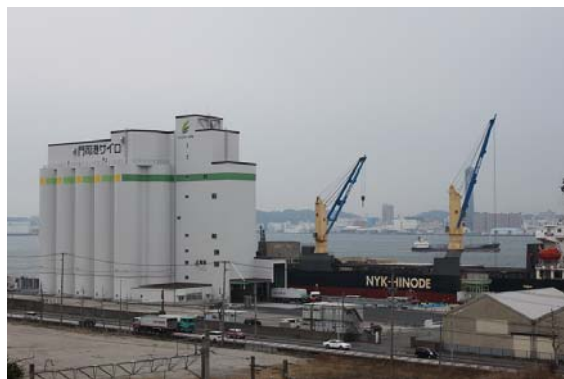
都市近郊型畜産・酪農業へのニーズ

北九州市・福岡市の2大消費地を抱える福岡県を中心とした都市近郊型畜産・酪農業は、大都市圏の食の供給源として存在感を増しており、その飼料生産・供給基地として関門地区への期待も高まっています。

4) 港湾施設再編のモデルケース

北九州港は、水深-10m~11mの在来外貿ふ頭を数多く有していますが、必ずしも活発に利用されていない施設もあり、港湾空港局ではこれら施設の再編を行っています。

今回のサイロの立地は、民間の資本を活用したモデルケースとなるとともに、サイロ稼働によって新たな物流が発生することで、ふ頭全体の活性化と地域経済への貢献を期待しています。



門司港サイロ



野畑昭彦・門司港サイロ代表取締役社長



歓迎訪船